

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察注意報について

令和2年度病害虫発生予察注意報第12号を発表したので送付します。

令和2年度病害虫発生予察注意報第12号

- 1 作物名 さとうきび
- 2 害虫名 メイチュウ類 (カンシャシンクイハマキ及びイネヨトウ)
- 3 発生地域 南大東村、久米島町、伊是名村
- 4 注意報発令の根拠
 - (1) 南大東村、久米島町および伊是名村における1月の新植夏植及び春植えほ場での芯枯茎調査の結果、芯枯茎率は南大東村(28.6%)、久米島町(17.3%)、伊是名村(22.1%)であった(表1)。
 - (2) 芯枯茎率に基づく発生程度は、沖縄本島が少であったのに対し、南大東村、伊是名村は甚、久米島町は多であった(表1)。なお、離島地域調査については、発生予察調査基準に準拠し各駐在農業改良普及員、病害虫防除員が実施した。

表1 各地域におけるメイチュウ類の芯枯茎率

地域名	芯枯茎率 (%)	発生程度 [※]
沖縄本島	2.8	少
南大東村	28.6	甚
久米島町	17.3	多
伊是名村	22.1	甚

※発生予察事業サトウキビ調査基準に基づき判定

- 5 発生生態および被害
 - a 被害ほ場及びイネ科雑草が発生源となり、ほ場に侵入する。
 - b ふ化幼虫は葉鞘内側を下降して節部の芽や根帯から食入し、生長点を加害し芯枯を起こす(図1、2、3)。
 - (1) カンシャシンクイハマキ(図4)
 - a 沖縄では年6~7世代を重ね、周年発生する。
 - b 卵は葉や茎に1~数卵ずつ産み付けられ、1雌当たりの生涯産卵数は200~500卵に達する。
 - c 被害はほ場内に散在的に発生する。
 - (2) イネヨトウ(図5)
 - a 沖縄では年5~7世代を重ね、周年発生する。
 - b 卵は葉鞘の裏側に卵塊で産み付けられ、1雌当たりの生涯産卵数は400~700卵に達する。

c 初期被害はほ場周縁部で見られ、ほ場内でスポット状や畝に沿って被害が拡大する。被害が集中的に起こるため、生育初期に加害されると坪枯れを起こすこともある。

6 防除上注意すべき事項

- (1) ほ場および周辺の除草を徹底する。
- (2) 発芽揃期から有効分けつ期の芯枯れを防止するため、食入初期の幼虫を対象に薬剤防除を行う。
- (3) 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液が浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し、降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- (4) 薬剤防除後、2～3週間において再度防除を行うことで防除効果が高まる。
- (5) 培土時には土壌害虫の防除を兼ねた薬剤（粒剤）を施用する。
- (6) 被害の多い地域では薬剤による一斉防除を行う。



図1 南大東村被害ほ場



図2 久米島町被害ほ場



図3 伊是名村被害ほ場



図4 カンシャシクイハマキ幼虫



図5 イネヨトウ幼虫

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL : (本所) 098-886-3880、(宮古駐在) 0980-73-2634、(八重山駐在) 0908-82-4933
ホームページアドレス : <http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichubojjo/index.html>